

# 上小っ子 校長室だより

2023年6月9日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

上郡町立上郡小学校 校長 森中 誠

5月27日、多くの参観をいただきながら、無事に体育大会を終えることができました。ありがとうございました。どの学年も元気いっぱいの集中した演技でした。登校時の朝の挨拶、演技中の返事の声、応援の声、どれもやる気に満ちたもので、あの元気の良さが上小っ子らしいと感じます。

翌週からは梅雨入りとなり、週末の大雨は、全国各地で災害をもたらしました。あの線状降水帯がもう少し上だったらと考えると恐ろしく感じます。学校での危機管理意識もさらに高めて教育活動に当たらねばと思いました。



さて、今回は、「自立の本当の意味」という記事を見つけましたので、ご紹介します。

「自立」というと自分以外のものの助けなしで、または支配を受けずに物事をやっていくこと、という意味であることを多くの辞書で説明している。実際はどうだろうか。

あるミュージシャンは自分の腕を磨きつつも高性能な機材を使い、バンドメンバーの演奏を生かして作曲し、完成後は販売者に託す。パソコンを使いこなしていても、誰かが開発したパソコンやソフトウェアを使っている。自分の力だけではない。

イギリスの著名な精神科医のドナルド・ウィニコット氏が亡くなって久しいが、彼は依存を「絶対的依存」と「相対的依存」に分けて説明している。絶対的依存とは、周りから見ても依存しなければならない状況にもかかわらず、本人は依存している自覚がないような状態。全体重で寄りかかっているため、依存している人や物がなくなると、途端に倒れてしまうような依存の仕方だ。依存している自覚がないため、依存先の人や物に対し、感謝の気持ちさえも存在しない。

一方、相対的依存は頼っていることに気づいている状態。何かに頼らないとやっていけない自分の限界もわかっていて、頼れることのありがたさも感じている状態だ。その自覚があるため、依存先がなくなってもすぐに路頭に迷うことにはなりにくい。心理学者の河合隼雄氏も自立について次のような言葉を残している。「自立ということは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれほど依存しているかを自覚し、感謝していることではなかろうか。」

野球のWBCで日本代表チームが感動的な優勝をしたことは記憶に新しい。素晴らしいピッチャーもいた。でもピッチャーが評価されるためには素晴らしいバッターの存在が不可欠。その逆もしかり。自分のチームメンバーだけでなく、相手チームに対しても”敬意を払って頼る”、そんな自立した選手たちの姿に心を大きく動かされたのではないかと思う。

(神田東クリニック院長 高野知樹)

日本経済新聞 4月29日「元気の処方箋」コラムより

以前、私は校長室便りで、「自立」の対義語は「依存」と記しましたが、このコラムから「できないことや困難な時には周りの人に頼り、またその頼っていることを自覚していることも自立である」ということを知りました。頼っていることを自覚していることによって感謝の気持ちが生まれますし、謙虚にもなれます。

児童は、学校や家庭で自分でできることは自分でやる。また、できるように努力する。しかし、どうしても難しいことは周りの人に頼り、感謝の念を持って生きていく。

「自分でやってみよう、考えてみよう」「よく頑張ったね」「お願いします」「ありがとう」そんな言葉かけが増える学校にしていきたいと思えます。